

図 3-6. 調節サブユニット C 末端ヘリックス間の相互作用。
擬 3 回対称軸がマゼンタの三角形で、
C 末端ヘリックス間の相互作用残基はスティックモデルで示されている。

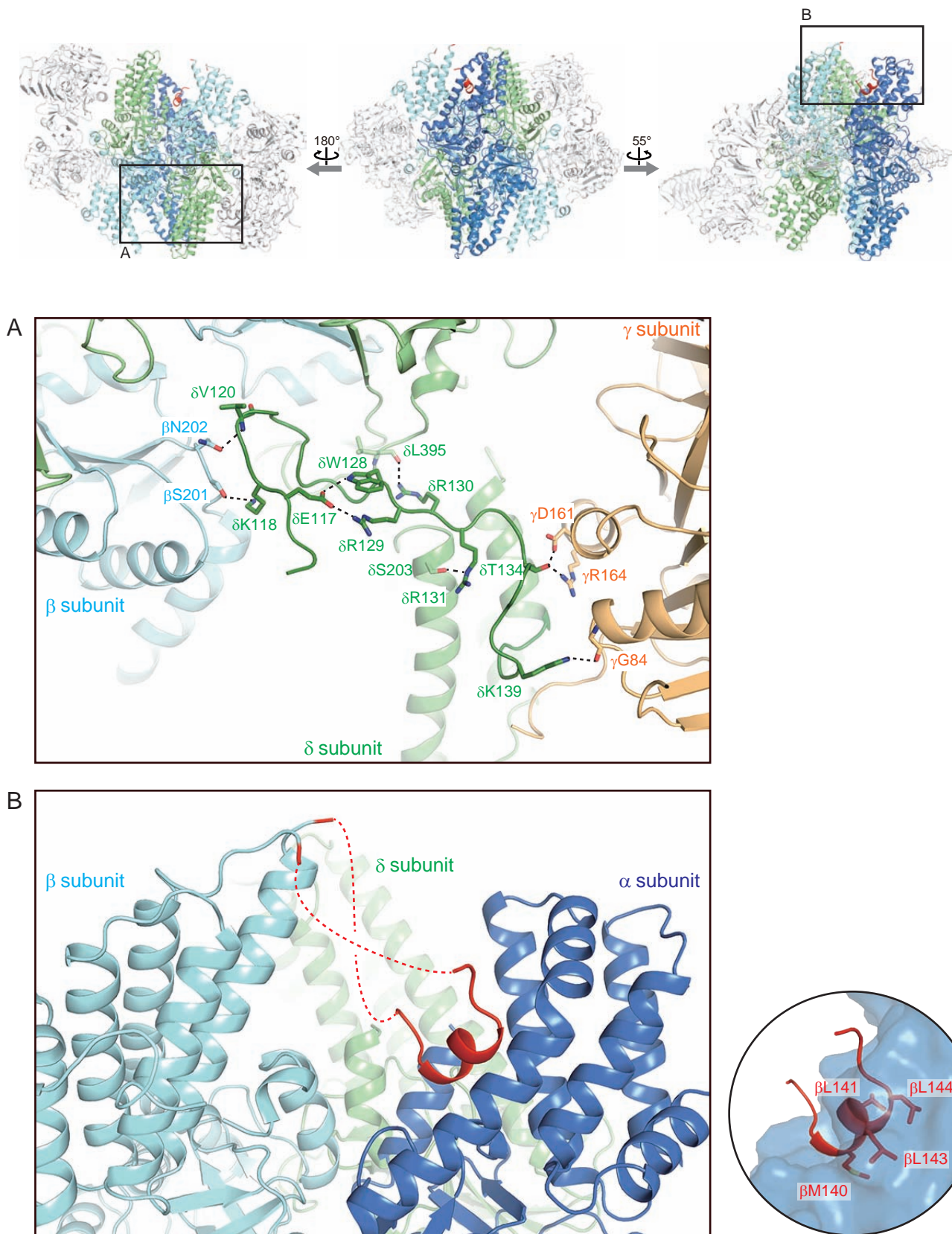


図 3-7. 調節サブユニット N 末端ドメインの相互作用 .

(A) δ サブユニット N 末端領域と他の領域との相互作用 .

相互作用残基をスティックモデルで示す .

(B) β サブユニット N 末端ドメイン挿入領域 (赤) と α サブユニットの相互作用 .

挿入ヘリックスの疎水的相互作用残基を囲みに示す .

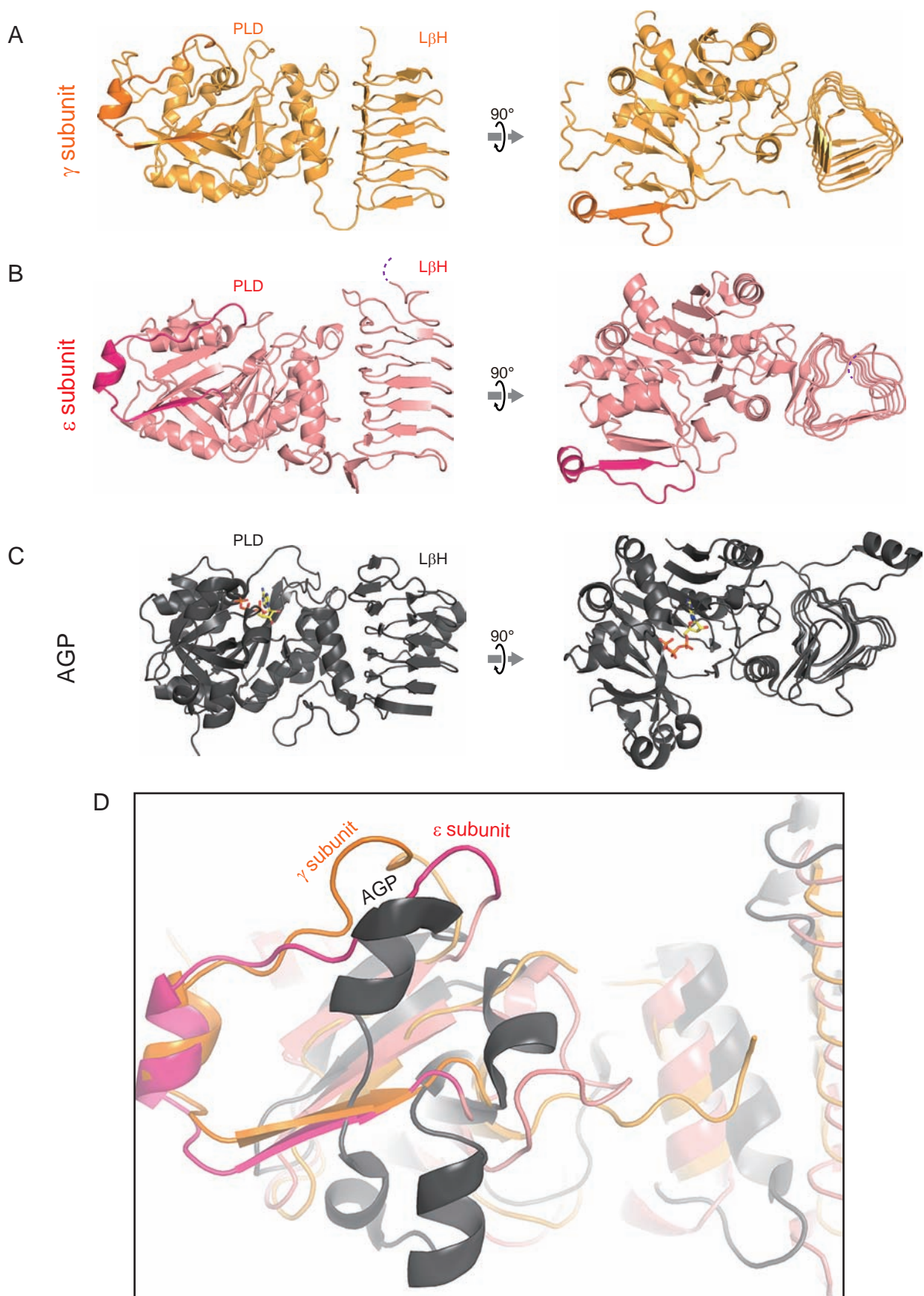


図 3-8. 触媒サブユニットの構造の比較 .

γ サブユニットの構造 (A), ε サブユニットの構造 (B),

ジャガイモ塊茎 AGP-ATP 複合体の構造 (PDBID: 1YP3)(C).

(A, B) において , γ - ε 間相互作用領域は濃いトーンで示されている .

(D) 相互作用領域の構造の比較 .

触媒サブユニットと AGP では大きく構造が異なる .

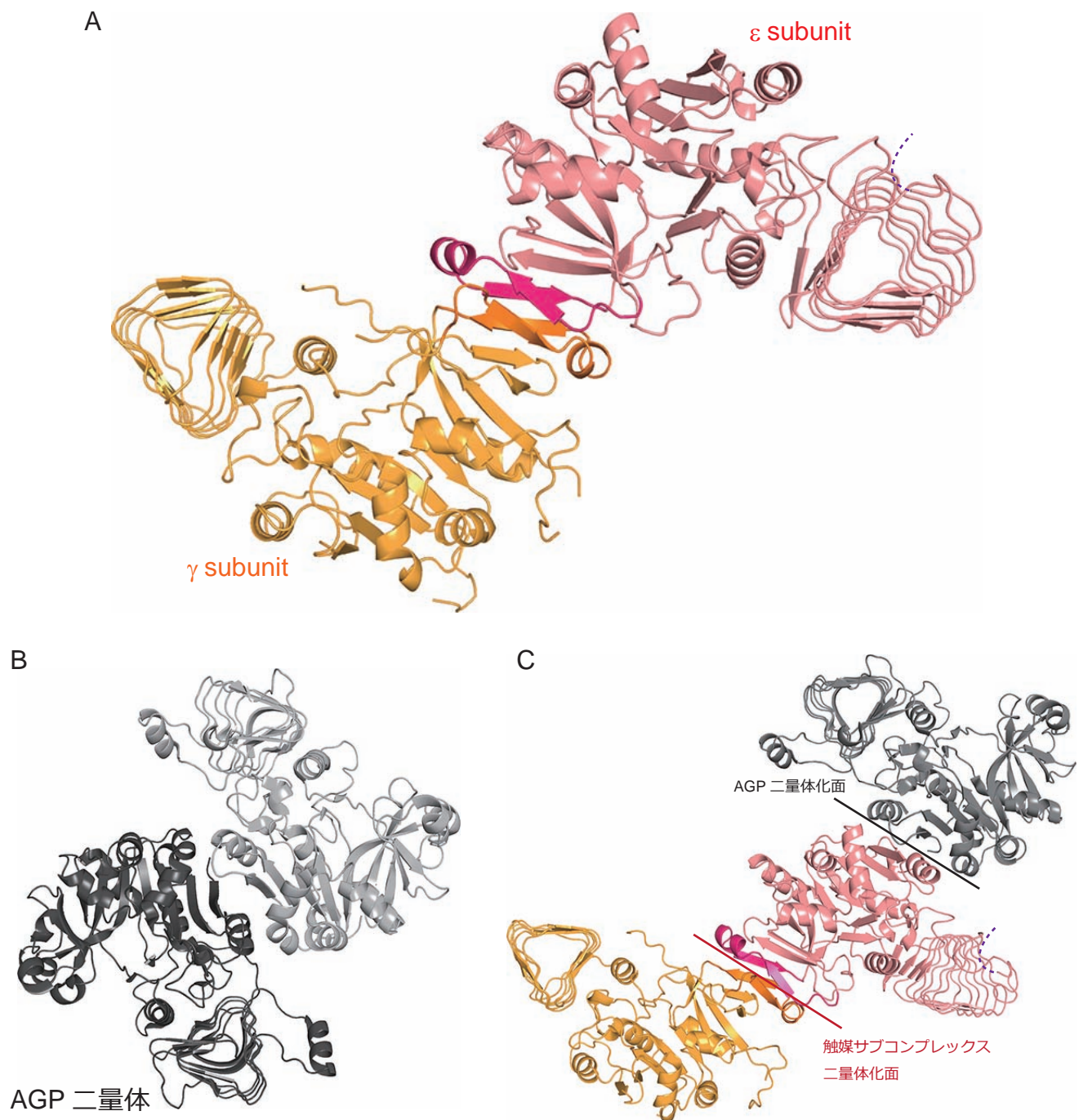


図 3-9. 触媒サブコンプレックスと AGP オリゴマーの構造の比較 .

(A) 触媒サブコンプレックスの構造 .

(B) AGP 四量体構造中の二量体化の様式 .

(D) 触媒サブコンプレックスと AGP の二量体化の様式の比較 .

ϵ サブユニットと (B) において黒色で示された AGP の重ね合わせ .

重ね合わされた AGP は省いてある .

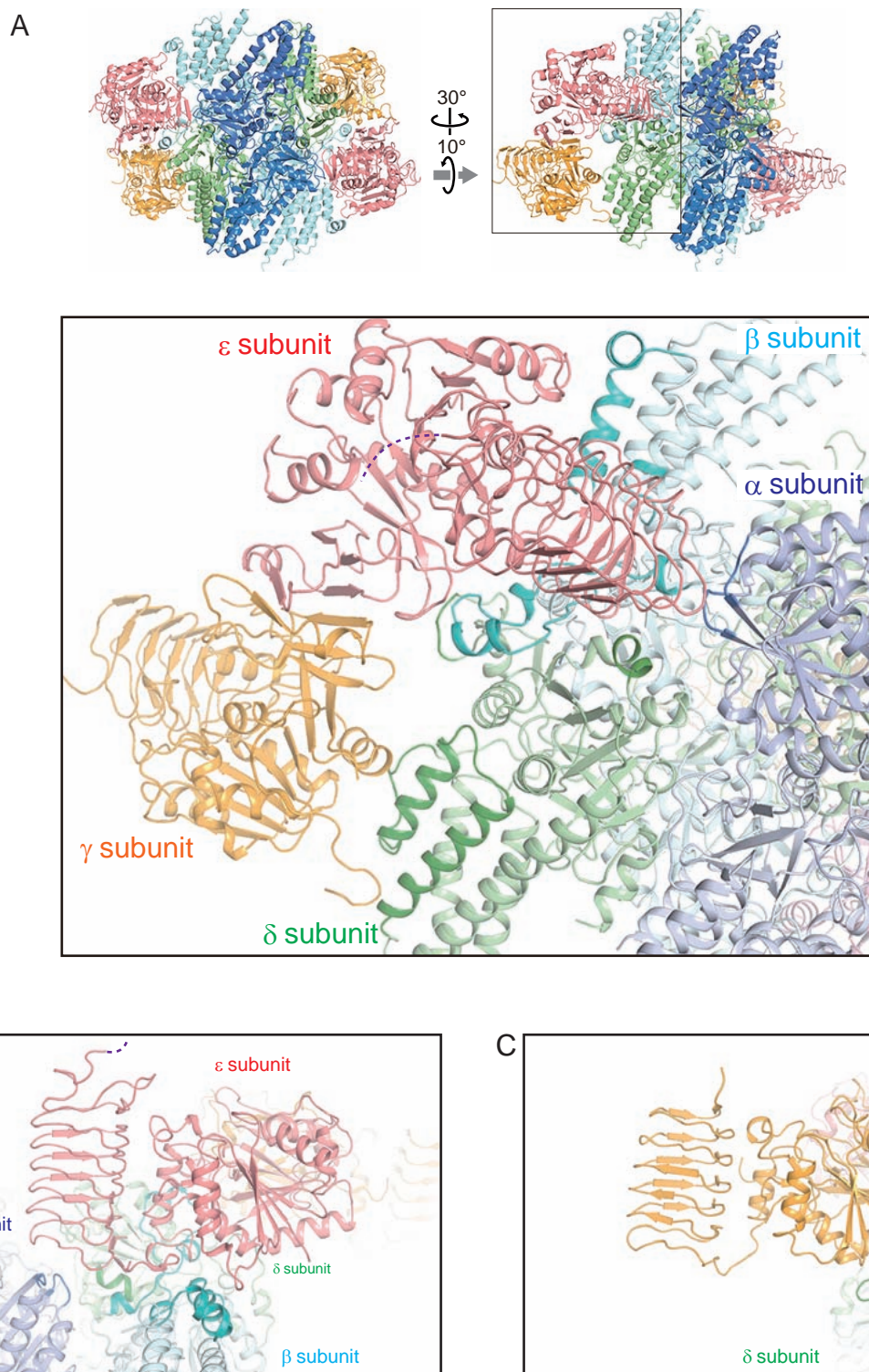


図 3-10. 調節サブコンプレックスと触媒サブコンプレックスの相互作用 .

(A) 相互作用の全体像 . 調節サブコンプレックス上の相互作用領域が濃い色で示されている .

(B) ϵ サブユニットと調節サブコンプレックスの相互作用 .

(C) γ サブユニットと調節サブコンプレックスの相互作用 .

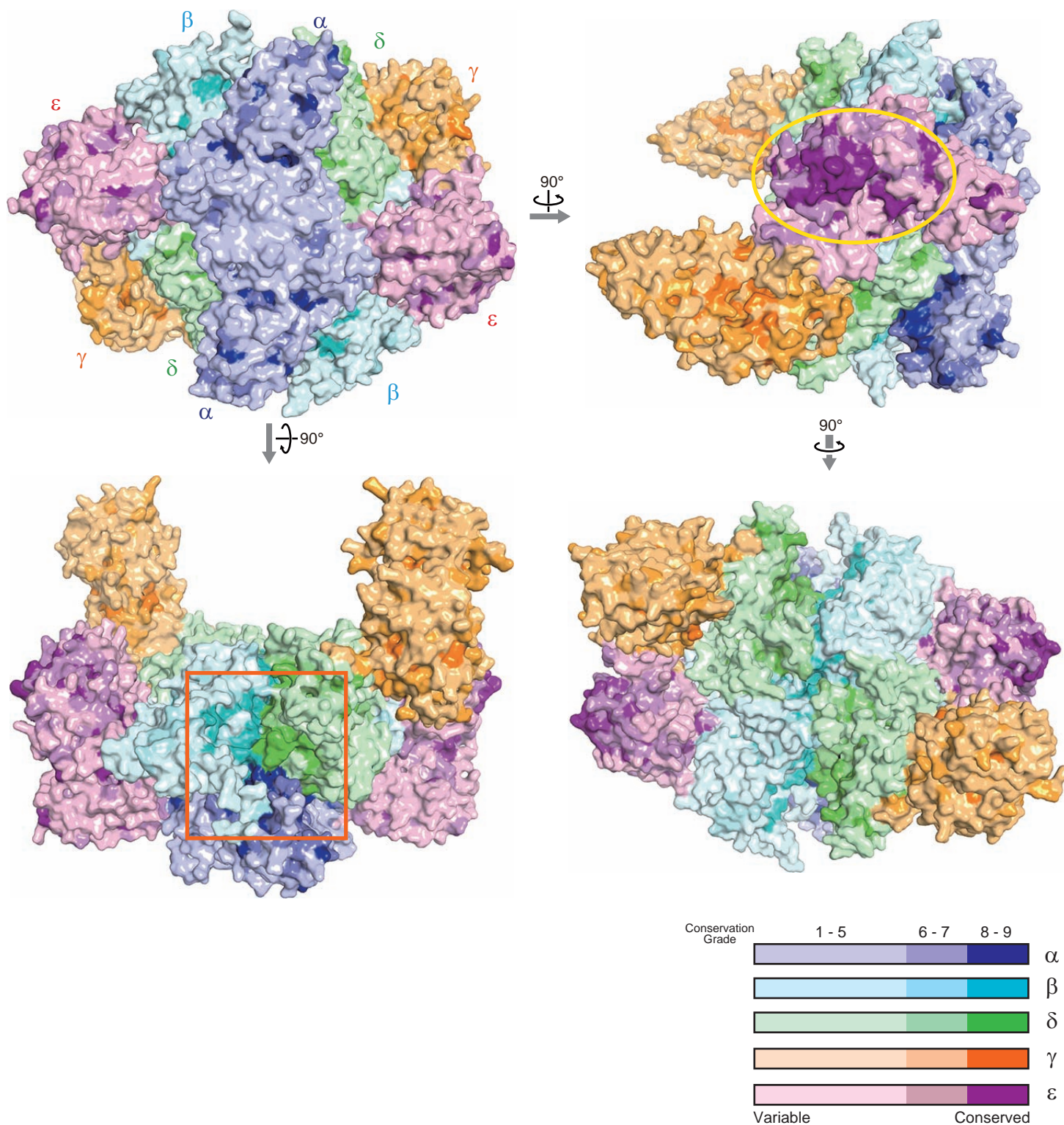


図 3-11. eIF2B 表面残基の保存性 .

保存性の高い表面残基は濃いトーンで塗られている .

ε サブユニット遠位面の保存領域が黄色で ,central cavity が橙色で囲まれている .

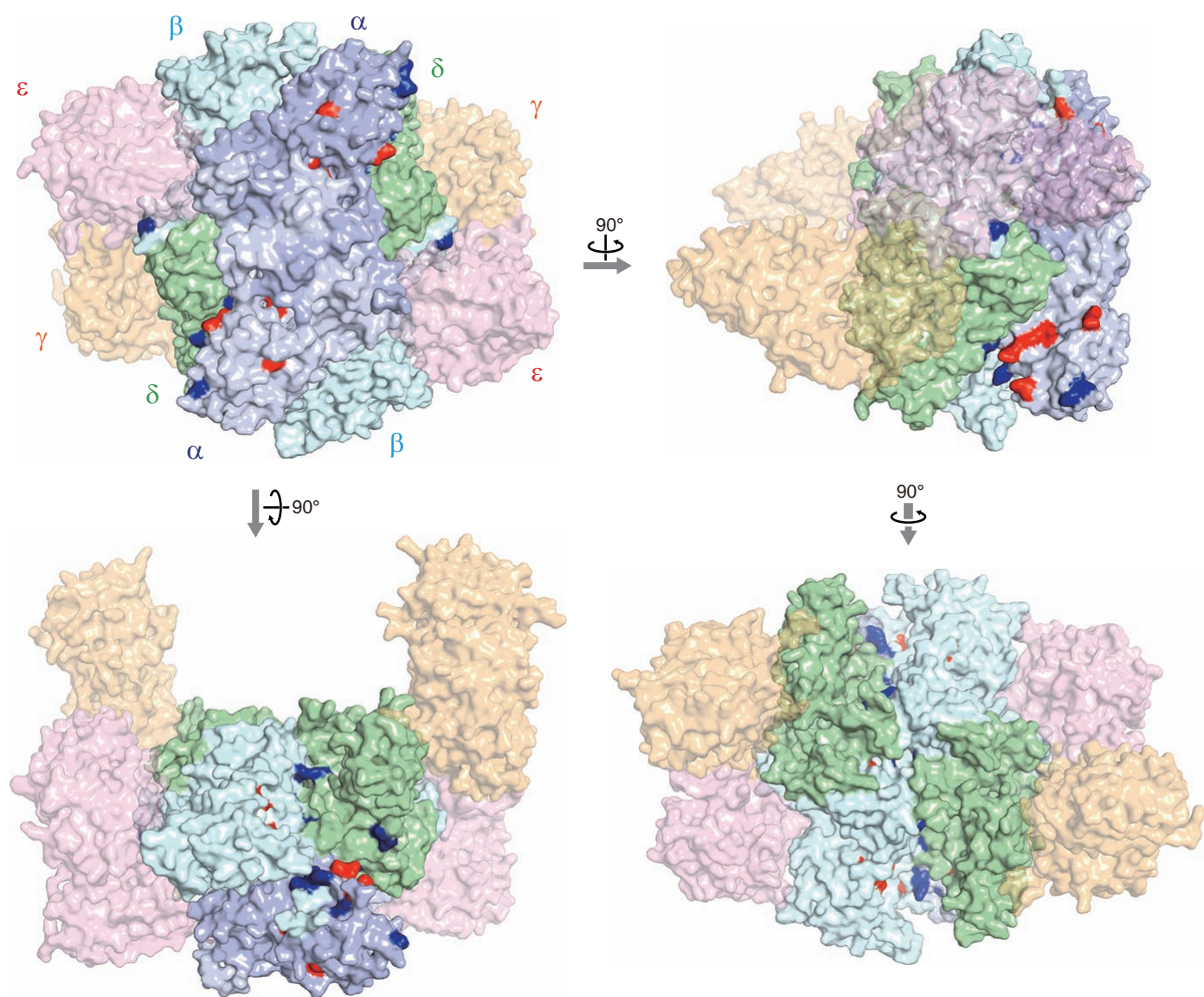


図 3-12. 出芽酵母 Gcd⁻/Gcn⁻ 変異の対応残基の構造上へのマッピング．
Gcd⁻ 変異を赤色で、Gcn⁻ 変異を青色で示している．

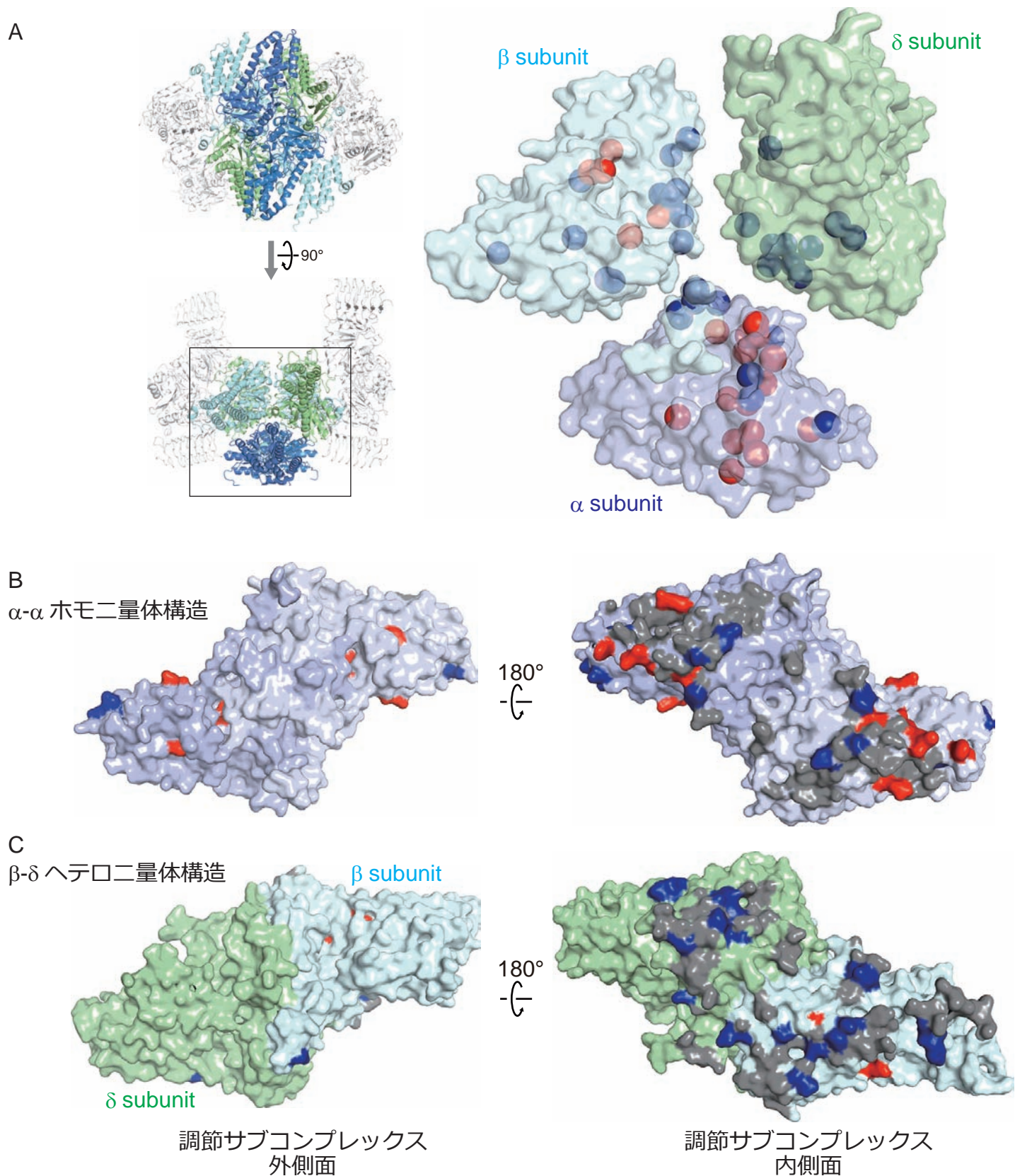


図 3-13. サブユニット相互作用面に局在する Gcd⁻/Gcn⁻ 変異残基 .

(A) Gcd⁻/Gcn⁻ 変異残基の位置 .C α 原子の位置が球で示されている .

Gcn⁻ 変異が α - β - δ 相互作用面に多く見られる .

(B, C) α - β - δ 相互作用面と Gcd⁻/Gcn⁻ の関係 .

灰色で塗られた α - β - δ 相互作用面上に多くの変異残基が存在する .